

2年間の集大成をご覧ください! パッチワーク展パート4

10月20日～22日の3日間、ホワイトキューブにおいて、パッチワーク展パート4が開催されました。

今回出展したのは、市内のパッチワーク教室で製作を行っている50名の生徒さんの作品約550点です。

会場には、2年間かけて製作した素晴らしい作品の数々が所狭しと展示され、3日間で延べ900人が訪れ、その素晴らしい技法に驚いていました。次回は、2年後の平成20年に開催を予定しています。



▲素晴らしい作品が勢ぞろい

第14回白石市生涯学習フェスティバル事業 講演会「方言の歴史と白石方言」

10月28日、碧水園の能楽堂を会場に、「方言の歴史と白石方言」と題して、東北大学大学院文学研究科の小林隆教授を講師に招き、講演会を開催しました。



▲白石の方言について説明する小林教授

当日は、平成15年、16年と白石で実際に調査した地元の方言についての話もあり、集まった100人を超える皆さんが熱心に講話に聞き入っていました。

講演後には、活発な質問もされるなど市民の皆さんの地元の方言への関心の高さがうかがわれました。

多彩な催しでふれあいました 第8回福祉まつり

10月29日、ホワイトキューブで第8回福祉まつりが開催されました。



▲車いすの体験コーナー

福祉の祭典として毎年開催されているこのまつりには、市内の福祉関係の団体が多数参加。

会場に設けられた特設会場では、障害を持つ方による歌や踊り、太鼓などの演奏が次々と披露され、1,500人の来場者を魅了しました。

また、車いすや目隠しでの歩行、手話などの各種体験コーナーも設けられ、多くの皆さんが体験していました。

収穫の秋をみんなで祝い! 第28回白石市農業祭

11月3日と4日の両日、ホワイトキューブを会場に白石市農業祭が開催され、市内外から2日間で約28,000人の皆さんが訪れ、収穫の秋を祝いました。

3日には、会場内で買い物をしてスタンプを2つ集めた先着1,000名の皆さんに、農薬と化学肥料の使用を半分に減らした、白石産の新米ひとめぼれ「こだわり米」2kgがプレゼントされるなど、新しいイベントで大にぎわいでした。



▲こだわり米のプレゼントに思わず笑顔!

日ごろの鍛錬の成果を披露 第37回市民文化祭

10月28日から11月3日にかけて、中央公民館と碧水園を会場に第37回市民文化祭が開催されました。

この文化祭は、市民の文化活動の祭典として、白石市文化協会の主催で毎年開催されているものです。

各会場では、絵画や書道、陶芸作品などの展示から、民謡やモダンダンス、箏曲、仕舞といった芸能発表まで、さまざまな分野での活動成果が披露され、発表を見に訪れた市民の目を楽しませていました。



▲仕舞を優雅に舞う発表者(碧水園)

日本刀の切れ味を間近に! 日本刀抜刀実演

11月5日、白石城本丸内において、日本刀の抜刀実演が行われ、日本が生んだ世界に誇る刀剣である日本刀の素晴らしさを披露しました。



▲巻き藁を気合いもろとも!

全日本夢想流抜刀道教士の堀野忠さんと、古武道日本刀村上截断道会長の瀧波重平さんを講師に迎え、それぞれの団体の剣士の皆さんにより巻き藁を使つての実演が行われました。日本刀の切れ味を間近にした観客からは、試し切りのたびに大きな歓声が上がり、拍手が送られました。

秋の清涼な空気の中で 「秋の市内一斉クリーン作戦」を実施

10月15日、秋の市内一斉クリーン作戦が各地で実施され、さわやかな秋晴れの下で約7,000人の市民が清掃活動を行いました。早朝から行われた道路周辺などの清掃活動で、空き缶から粗大ごみまで大量のごみを回収。ひと仕事終えた皆さんから笑みがこぼれていました。



▲ごみの分別作業を行う参加者の皆さん

なお、前日にはNECトーキン(株)白石事業所やNECインフロンティア東北(株)の社員とその家族の皆さんも清掃活動を行っています。

花嫁のまなざしの向こうには… 第3回白石城下きものまつり

10月20日から22日の3日間にわたり、すまいるひろばを中心に「白石城下きものまつり」が開催されました。この催しは、着物をテーマに白石をPRしようと、白石まちづくり株式会社が主催したものです。

着物のファッションショーや大正・昭和初期の着物の展示などが行われたほか、21日には市内のカップルによる花嫁行列も行われ、その洗練された美しさと厳かさに、道行く多くの人が足を止めて見入っていました。



▲花嫁行列の主役・鈴木さん夫妻

平成18丙戌年(ひのけね)も残すところ一カ月となりました。皆さんにとって、今年はどういう一年だったでしょうか? 私は、例年のごとく目まぐるしい年を過ごしましたが、姉妹都市であるオーストラリア・ハーストビル市を訪問したことが特に例年とは違うところだったと思います。

10月23日～28日の5日間(滞在は正味3日間でしたが…)、市民34名の皆さんとともに、ハーストビル市に国際交流使節団として行ってきました。市民団は21日(土)に出発し、私は公務の都合で2日遅れの出発となりましたが、24日昼にブリスベンにて市民団と合流し、一緒にハーストビルがあるシドニーに入りました(飛行機で9時間あまりの長旅、そして夜行であったことや、ちよっとしたハブニングもあり、私は少々バテ気味

風間市長の「虫の十ヶ年」やま「渡豪」

ていました。そのため、時として大いにイライラさせられることもありましたが、逆に、ゆつたりとしているかと思いきや、そんなことに構わなくてもいいのでは? と思いうくらい神経質な面を見せられたりと、驚きの連続でした。その中

緒に行った34名の市民団の皆さん、ご苦労さまでした。そしてまだ参加されたことのない方は、ぜひこれからの「友好の翼」に参加して、自分自身で国際交流を体験されることをお勧めします。「渡」とはわたる、わたす、ひ

この号が皆さんの手元に届くころは「師走」。何かと忙しく感じられる時です。それ故、慌ただしさに気を取られ、心を亡ぼすことのないよう、ゆつたりとした気持ちで、新たな年を待ちましょう。来年は「亥歳」です。猪突猛進

「11月号の答え」

当てにならないことを「でたらめ」と言いますが、語源はサイコロにあります。サイコロばくちで自分の思いどおりの目を出そうとしても、その出方はあてにならないので、「でたらめ」というようになります。それが「でまかせ」という意味に発展したといわれています。

ばかりにならず、この一年を振り返りながら、より素晴らしい年へ。良きお年をお迎えください。話は変わりますが、「石の上にも三年」とか「仏の顔も三度」というように、なぜ「三」がつく言葉が多いのでしょうか?